

科目名：看護管理	配当年次 3 年	開講時期 3 年後期
単位・時間：1 単位（1 5 時間）	授業の方法：講義	
担当者：三原・長田・金子・鈴木・池田 実務経験のある教員による授業 ☒ 看護管理者・薬剤師・管理栄養士、社会福祉士等チーム医療を実践する構成員がその経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。		
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 看護を効果的・効率的に提供するために看護管理の理論や技術について、組織論や管理過程と共に、チーム医療に必要なリーダーシップ理論、意思決定、調整とマネジメントについてチーム医療の観点から教授する。 ここでは、臨床での実践者、他職種など様々な方を導入し現状と他職種への理解（尊重）とともに、「看護師とは」について自己の看護師像をさらに構築する動機付けとなることをねらいとする。 【目標】 1. 看護管理の定義、基本要素、看護におけるマネジメントの考え方を理解する。 2. リーダーシップと意思決定支援の方法について理解する。 3. 他職種の役割と範囲を理解（尊重）し、協働連携の在り方を考える。 4. 自己の看護職としてのキャリアデザインを再考する。	
授業の計画	1 保健医療システムから見えてくること 保健医療提供システム／保健／医療の提供とチーム活動／保健医療チームと看護／医療提供体制の改革 2. 3. 4 専門職集団の中で、協働するために必要な看護師の知識・技術・態度・他職種の役割と協働 NST の一員として（管理栄養士）／MSW／薬剤師 等 5 看護管理とシステム・組織とマネジメント・病院管理の実際 6. 7 リーダーシップ理論・対人援助とリーダーシップ 対人関係の在り方トレーニング（演習）・キャリアデザインの再考 8 試験	
成績評価の方法・基準	筆記試験 5 0 % 課題レポート 5 0 %	
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 看護の統合と実践 [1] 看護管理 医学書院 e テキスト 【参考文献】 細田満和子：チーム医療とは何か、日本看護協会出版会 チーム医療論 医歯薬出版 その他講義内で紹介する	
履修上の注意事項	臨床での実践者、他職種など様々な方によって講義が展開される。そのため、休むことのないように留意されたい。	

科目名：看護・医療安全教育	配当年次 3 年	開講時期 3 年前期・後期
単位・時間：1 単位（30 時間）	授業の方法：講義	
担当者：那須 幸子・野部 雅子 実務経験のある教員による授業 ☒ 感染管理認定看護師と看護管理者として実務経験のある教員が、その経験を活かし実践的な事例を含めた講義を行う。		
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 医療事故発生の要因と増加の背景について、人間の認知や人間工学的視点から考える。 さらにその予防策として、実習中のヒヤリ・ハットや過去の事故事例を活用し具体的に考え理解を深める。 【目標】 1. 医療事故要因と増加の背景について理解する。 2. 医療事故予防策について理解する。 3. 感染管理の実際を理解する。	
授業の計画	【授業計画】 1 医療安全の基礎知識 看護医療事故の構造／看護医療事故予防の考え方／看護業務の特性と医療事故／医療事故の現状／ヒューマンファクター及びヒューマンエラー／自己モニタリングとメタ認知 2 危険予知トレーニング、医療事故防止策 3 インシデント・アクシデントレポートの目的、書き方ト 4. 5 } 感染管理の実際 6. 7 } 医療施設における有効な感染対策／感染防止策に有効な看護技術 8. 9 コミュニケーションエラー ヒューマンエラーと医療事故（人間工学の視点含む）／看護者要因の理解と対策 10 専門職と法的責任 必要とされる資質や条件と保健師助産師看護師法等の位置づけ／医療行為とその変遷・動向／法的責任／医療事故に伴う影響／医療安全に係る取り組み 11. 12 } 医療事故事例 13. 14 } ヒヤリ・ハット事例検討／医療事故分析 15 筆記試験及び解説	
成績評価の方法・基準	筆記試験 100% （那須 70%、野部 30% の合算）	
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 看護の統合と実践[2] 医療安全、基礎看護学[1] 看護学概論 【参考文献】 川村治子：医療安全ワークブック 医学書院 加藤済仁：看護師の注意義務と責任 新日本法規	
履修上の注意事項	1～7 は前期に実施、8～15 は後期に実施 4～7 は感染管理認定看護師が担当	

科目名：災害看護	配当年次 3 年	開講時期 3 年前期
単位・時間：1 単位（30 時間）	授業の方法：講義	
担当者：増田・山崎・村山 実務経験のある教員による授業 ☒ 日本赤十字病院からの看護師および市町村の防災担当、消防署の救急救命士等が実践を生かした講義を行う。		
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 災害看護とは、災害に関する看護独自の知識や技術を体系的かつ柔軟に用いると共に他の専門分野と協力して災害の及ぼす生命や健康生活への被害を極力少なくするための活動を展開する事である。国際的な医療看護の視点で現状を概観し国際協力のしくみと、災害発災から災害サイクル各期の看護を理解する。又地域社会における災害実践活動へ参加や、演習を通し、自分が置かれている地域社会（看護学校を含む）の防災システムの理解を深める。災害発生時又は災害に備えて、看護者として行動できるための知識技術態度を身につけることをねらいとする。災害はいつ、何処で起こるかわからない、災害看護の授業を通し、何処で災害が発生しても、看護学生として自分の安全を確保し、指示に従って災害救助活動に参加する姿勢を身につけてほしい。 【目標】 1. 国際医療・看護における国際交流と協力について理解する。 2. 災害および災害看護に関する基礎的知識、技術、態度を理解する。 3. 災害および災害看護に関心を持ち、在学中および卒業後の自己の役割を認識する。	
授業の計画	1 災害、災害看護の概念 2 地域社会の防災システム・防災訓練の位置づけ 当地域にける災害ボランティアの実際と活動方法 3. 4 防災訓練に看護学生として参加 5. 6 救命処置 7. 8 災害サイクルに沿った看護 9 看護における国際化の状況 10 国際協力の仕組み 11. 12. } 災害サイクルに沿った看護（トリアージ・初期対応演習） 13. 14 } 15 筆記試験及び解説	
成績評価の方法・基準	筆記試験 80% 課題レポート 10% 市民防災訓練・上級救命講への参加（出席） 10%	
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 医学書院 e テキスト 【参考文献】 災害看護 南山堂 災害看護学 メヂカルフレンド社	
履修上の注意事項	学外での授業もあるため、事前オリエンテーションをよく聞いて行動してください。 また、休むことのないように留意されたい。	

科目名：看護研究Ⅰ		配当年次 2 年	開講時間 2 年後期
単位・時間：1 単位（1 5 時間）		授業の方法：講義	
担当者：那須 幸子		実務経験のある教員による授業□	
授業概要 目的・到達 目標	【講義内容】 専門職として看護師は、対象に対して常にケアの質の向上が求められる。看護問題を解決に導く過程において研究的視点が必要になる。「研究力」を身につけるため、研究のプロセスにおける基礎的知識や研究に取り組む姿勢について学ぶ。 【目標】 1. 看護研究の特徴が理解できる。 2. 研究における倫理的配慮と重要性がわかる。 3. 研究の進め方と研究計画書の役割が理解できる。 4. 文献検討を通し研究目的と研究方法について理解できる。 5. 研究発表の流れが概観できる。		
授業計画	1. 看護研究の必要性・研究力について 2. リサーチクエスチョンをたてる 3. 情報の探索と吟味 4. 研究における倫理的配慮 5. 研究の設計と方法の選択 6. 研究計画をたてる 7. 事例研究の進め方・論文作成・発表 8. 試験		
成績評価 の方法	筆記試験 6 0 % レポート 4 0 %		
テキスト	【教科書】 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 【参考文献】 ナーシング・グラフィカ 基礎看護学④ 看護研究 メディカ出版 松本 孚, 森田夏実, 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方, 照林社		
備考	・課題の提出については時間を守ること。遅れた場合は減点対象となる。 ・看護学生研究発表会に参加するにあたり学習者として適切に行動することを求める。		

科目名：看護研究Ⅱ		配当年次 3 年	開講時期 3 年前期
単位・時間：1 単位（30 時間）		授業の方法：演習	
担当者：吉野 里子		実務経験のある教員による授業 ☐	
授業概要 目的・到達目標	【講義内容】 看護研究の基礎Ⅰで看護研究に関する基礎知識を学習した。そのうえで実際に研究に取り組み研究のプロセスを通じて研究の進め方の理解を深める。この学習を通しさらに今後の実践を発展させていく力を養うことを目指す。 【目標】 1. 研究の過程とその進め方がわかる。 2. テーマを見出し、論文としてまとめる。 3. 看護研究を学内で発表する。 4. 研究の一連の過程を体験することにより、研究的態度の必要性がわかる。		
授業の計画	【講義計画】 1. ケースレポートの目的、進め方と構成要素の定義 2. 自己の看護についてのサマリー 3. リサーチクエスションの決定にむけ、初期的な文献検索 4. 事例の意図的な選定、仮のリサーチクエスションの設定 5. 6 仮のリサーチクエスションに関する文献レビュー F I N E R の基準と照らし合わせ、リサーチクエスションを精練し決定 7. 研究目的の明確化、研究計画書の作成、文献整理 8. 9 研究計画書に基づき、文献クリティークを行いながらスライドと発表原稿を作成 10. 11 } ポスターの作成 12. 13 } 発表原稿の作成 14. 15 ポスター発表、質疑応答		
成績評価の方法・基準	作成過程の取り組みと県の論文評価に準じた内容の評価表を初講時に提示し、評価表に基づいて行う。		
テキスト	【教科書】 系統的看護学講座 看護研究 医学書院 e テキスト 【参考文献】 高橋百合子：看護学生のためのケース・スタディ 第4版、メヂカルフレンド社、2015 松本孚：新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方、照林社、2009 黒田祐子：看護研究 Step by Step 第6版、医学書院、2023		
履修上の注意事項	3 年次前期臨地実習の看護実践をケースとして取り扱う。その為臨地実習内容の充実と記録にとどめるという姿勢を持って臨んでほしい。		